



イベント 終活カウンセラー協会、「周囲との絆」テーマに大阪でシンポジウム

一般社団法人終活カウンセラー協会（本部東京都品川区、代表理事武藤頼胡氏）は4月12日、大阪市中央区の大阪産業創造館で「終活シンポジウム～終活フェスタ2014in大阪」を開催した。

同協会は、終活に関する知識を得るための講座の開催や資格認定などを行っており、2011年7月の設立からの受講者数は2,856人。今年度中に1万人の突破を目指している。今回のシンポジウム開催にあたって設定されたテーマは「周囲との絆」。そもそも終活は周囲との絆からはじまり、家族・友人・地域などの周囲とともに考えることによって、より深いものになっていく。そこで周囲との絆を深めることで、自分の終焉を見つめ直し、今後の人生をよりよいものにしていこうというのが開催の狙いだ。

第1部の講演では、まず代表理事の武藤氏が、終活の意味や同協会の活動について説明するとともに、エンディングノートを書きたい人は50%を超えるのに実際に書いた人は2%に満たないなど、終活をめぐる現状を報告。終活を考える参考書として、12年10月に亡くなった流通ジャーナリスト故金子哲雄氏の『僕の死

第1部で講演を行なう武藤頼胡氏



第2部のパネルディスカッション「真の終活についてそれぞれの立場から考える」

協賛企業の資料を興味深く眺める来場者



さまざまな趣向を凝らした協賛企業・団体のブース展示

に方 エンディングダイアリー 500日』や、緩和医療医大津秀一氏の『死ぬときに後悔すること25』をあげた。続いて兵庫県在住の神尾洋一氏が、「実際に終活に取り組んでみて」と題し、両親の介護をとおして終活に立ち会った自らの体験を報告した。

第2部のパネルディスカッションでは、進行を賀集一弥氏（メットライフアリコ生命保険）が担当し、秋田光彦（浄土宗大蓮寺住職、應典院代表）、黒崎伸子（国境なき医師団日本会長）、赤澤健一（リリーフ社長）の各氏と武藤氏がパネラーとして登壇。そのなかで、秋田氏からエンディングノートを書いて終わるのでなく、それをとおして生死についての考え方を深めてほしいという宗教者からの貴重な指摘もあった。

今回の終活フェスタでは、24社が協賛してブース出展や資料配布を実施。来場者は220人で盛況のうちに幕を閉じた。

◆問合せ 一般社団法人終活カウンセラー協会

東京都品川区旗の台4-2-5 ホープイン旗の台2B

☎03-6426-8019 <http://www.shukatsu-csl.jp/>

好評
発売中

卸売市場+花き産業=総合名簿
花市場のすべて2013

4,680円
(送料・税共)

花業界の最新動向が
わかる専門全国紙

花卉園芸新聞

見本紙無料進呈中

毎月1・15日発行 年間購読料 9600円(送料・税共)



お申し込みは直接当社へ→ 現金書留または郵便振替00810-5-23015、三菱東京UFJ銀行名古屋駅前支店 当座0212004
カキエンゲイ
(株)花卉園芸新聞社

本社〒464-0850 名古屋市千種区今池2-1-16 八晃ビル2B
TEL052-744-0733 FAX052-744-0739
<http://www.kakiengei.jp/> メールkakiengei@minos.ocn.ne.jp